

# 川村理學博士の講演を聴きて

理學博士 山口 銳之助

時刻も大分經過して居りますから、一寸簡単に唯今の川村君の後段の御説に對して一言致したいと思ひます。

成程川村君の仰やる通り、大和、河内、和泉の方の皇陵の有様を拜すると、其樹木の古くして立派なのに對して自然頭が下がる。それが日本の氣候に適つて居ることで、實に神々しいことである、さうして其の例も擧げてお話になつて私も實に同感である。其樹木を立派にするには、氣候に能く適つて居らなければならぬといふことは、實は役所で餘り考慮して居らなかつたのである。明治の初年に太政官達として皇陵は成るべく惡草を除いて良木を保護しなければならぬといふことであつたので、此のことは普通の人には分らぬものと見えて、無心の番人共が草木などを切つてしまつた。自分の在職中やはり天然のまゝを保持するが宜いといふことを頻りに宣傳して見たが、容易に行はれなかつたが、退職する前

にやゝそのことが運ぶやうになつた。自分も職務の都合上時折巡視して見たが、泉州の菟砥の御陵や、日本武尊の能褒野陵などは、赤松の山や笹が一杯で随分見つともない有様であつたが、私が退職する頃には即ち十年経つて立派な二段の常緑木の森になつたのである。

是れは皇陵ばかりに限らず、神社でもさうである。「ひもろぎ」といふものがあつて神社が神々しいのである。然るに近頃東京市、又その附近の市なり郡なりで、段々繁昌して來る所は、神社經營の財源を得る爲めどし／＼神社の森を征伐してゐるのであるが、これは甚だ宜しくないことと思ふ。

それから川村君は京都の方には頭の下がる森は少いと云はれたやうであるが、山科の天智天皇の御陵や、京都の醍醐天皇の御陵などは立派な森などがあつて中々森嚴なものである。

次に明治天皇の御陵は上に木の生えない方針を取つて居る。これは築造の際に御掃除をしなくともよいやうに、初から木や草も植えないで、「さざれ石」といふ石で積み、又コンクリートで貼り付けたのである。併し私は周圍は成る可く早く天然の「ひもろぎ」のやうなものにしたいと思つて其方針によつたので、年數さへ経つて、さうした方針が變らぬで維持させて居るならば、自然に木が生えて行くやうになるのではないかと私は思ふ。自分の知つて居ることで、ついお喋りを致した次第である。（小倉惠略記）